

# 2010年3月期 中間決算説明



# 経営理念

## あたりまえのことをあたりまえに

- 当リゾートホテル業界に关しましては、本州地域に景気回復傾向がみられるものの、基盤である北海道内は依然として個人消費等の回復は遅れており、各ホテルの売上の拡大は期待できず、ますます厳しい状況が続くと思われます。
- 当社グループといたしましては、「あたりまえのことをあたりまえに」をモットーにして、安全で安心のできるお客様へのサービスをご提供したいと考えております。また、さらなる経費削減と社員の能力向上を図り、収益性の高い企業構造への転換を積極的に推し進めてまいります。

# 半期業績の概要

- 当中間期（平成21年4月から平成21年9月まで）における我が国経済は、昨年来からの景気対策による需要の下支えにより持ち直しの動きがあるものの、新政権による補正予算見直しの動き如何によっては、一時的な景気低迷の可能性が懸念されるところです。
- 北海道の景況は、設備投資や住宅着工の大幅減などから、景気は低迷しており、雇用や所得環境の悪化などを背景とした停滞が続くと予想されます。
- 観光業界におきましては、秋の大型連休による底上げ効果がみられるものの、景気の低迷に加え、新型インフルエンザの影響により厳しい状況にあります。
- このような状況のもと当社及び当社グループはサービス向上、魅力ある宿泊プランの提供、マスメディアを利用した広告展開等に注力し幅広い層からの支持を狙いました。しかしながら、前期並みの集客数を維持することができず売上高は99億円、前年同月比で△18億円、率にして△15%に落ち込みました。

# 業界動向の見通し

- 国内旅行者数は落ち込むことなく当面横ばいと見ます。海外渡航の旅行者は不透明ながらも増加傾向は続きますが、国内市場を追い込むことにはなり得ません。一方、外国からの観光客（インバウンド）は一時的な落ち込みはあっても増加する傾向です。北海道は特に期待しており、多少の振幅はありますが、個人旅行ビザの解禁等の追い風により上昇トレンドを享受することを想定しております。
- 業界内での競争は観光ホテルの新規大型投資は考えにくく、一方で業績不振ホテル、老朽化ホテルの淘汰が進み、長期的に需要は徐々に緩和される見通しです。それまでは生き残りをかけた消耗戦は続くと思われれます。
- 多業態との競争に関しましては、温泉の魅力は褪せないものの、特にファミリー層のレジャーにおける安・近・短施設（日帰りスパに限らず多様なアミューズメント施設）の集客力がますます脅威になってまいります。
- 価格面の留意点としまして、一度経験したデフレ、及びインターネットでの料金をメインに種々の情報が瞬時に分かることなどから更に厳しい低下圧力があります。
- 総じて地域、個々のホテルの個性、魅力ある企画力などが今後大きな課題であり、成否の分岐点になります。同時にITやインターネット関連の投資とその活用が販路拡大、経費の効率化にとって一層重要になるものと考えております。

# 経営の課題と対策(1)

## 売上と消費単価

- 売上の拡大を図るため積極的に入込人員増加策を推進します。予約動向のチェック、宿泊単価の機動的な見直しを、迅速に正確に行います。こうした行動を常時継続できる体制づくりが必要です。
- サービスのさらなる向上と、もてなしの魅力づくりを揚げ、ホテルごとに特色を打ち出して、幅広い客層の需要掘り起こしを図ります。あらゆる集客の機会をムダにしないことで増収を図ります。
- また、宿泊プランにおいて、チェーン共通のもの、各地域の特色を出すもの、それぞれの企画をバランスよく推進することが必要です。また定期的、季節的な企画も採算性と販促性をしっかり見極めます。
- 館内消費アップの施策は社員全員が意識を持つことにより、別料理の販売や館内飲食店利用のセールスを強化していくことを第一に取り組みます。とりわけ低単価の顧客の付帯売上対策が重要です。
- 売店売上増のため、店頭豊富な品揃えや、季節感、客層に応じたきめ細かい入れ替えを行い、販売機会を逃さないようにチェックしていきます。



# 経営の課題と対策(2)

## 北海道観光の国際化対応

- 北海道観光の国際化を早くから見込んでおり、台湾、韓国、中国などでプロモーション活動を行うなど外国人観光客の集客に取り組んでおります。
- 食事メニューに工夫を凝らし、台湾以外の諸外国からのリピーターを取り込みます。



## 本州での積極投資

- 北海道は観光のポテンシャルは高いと見ていますが、景気動向からハード面での大型投資は慎重になります。ソフト面、各ホテルのサービス向上と企画の魅力づくりが優先です。
- 現在、売上高の約56%が道外ホテルです。首都圏のビジネスホテルが高い稼働率を続けている他、2007年2月に傘下に収めた大阪ベイエリアにある21階建てのホテルコスモスクエア国際交流センターは、19年度からフルに収益に寄与しています。秋保、白浜の高級ホテルも収益挽回のための投資を考えています。

# 経営の課題と対策(3)

## 経費節減

- 安定的な収益の成長のため、人件費、光熱費、消耗品を厳しくチェックします。特に現場をよく見る、食材等の価格調査を怠らないなどの体制を維持します。変動費、固定費の分析を進め、変動比率を高めることが課題です。
- 施設の維持、清潔感、安全性に最大の配慮を図るため、修繕、改修は柔軟に計画的に対処します。スペース等に無駄がないよう効果を出すため、前記同様、顧客の意見を聞く、現場をよく見る、現地調査を怠らないなどの体制を維持します。

## リスク管理

- 当社及び当社グループの事業に関するリスクについて、発生の可能性を認識したうえで、回避及び発生した場合の迅速な対応に努める所存です。主な事項は下記です。
- 内部統制・噴火災害・温泉枯渇・減損会計・人材確保・財務資金繰り



# 決算概要

連結 金額単位：百万円

	2008年9月期	2009年9月期	比較
売上高	11,746	9,911	-15.6%
営業利益	513	411	-19.8%
経常利益	200	201	100.3%
中間純利益	-882	43	--
1株当たり中間純利益	--	4円91銭	--

# 財政状態

連結 金額単位:百万円

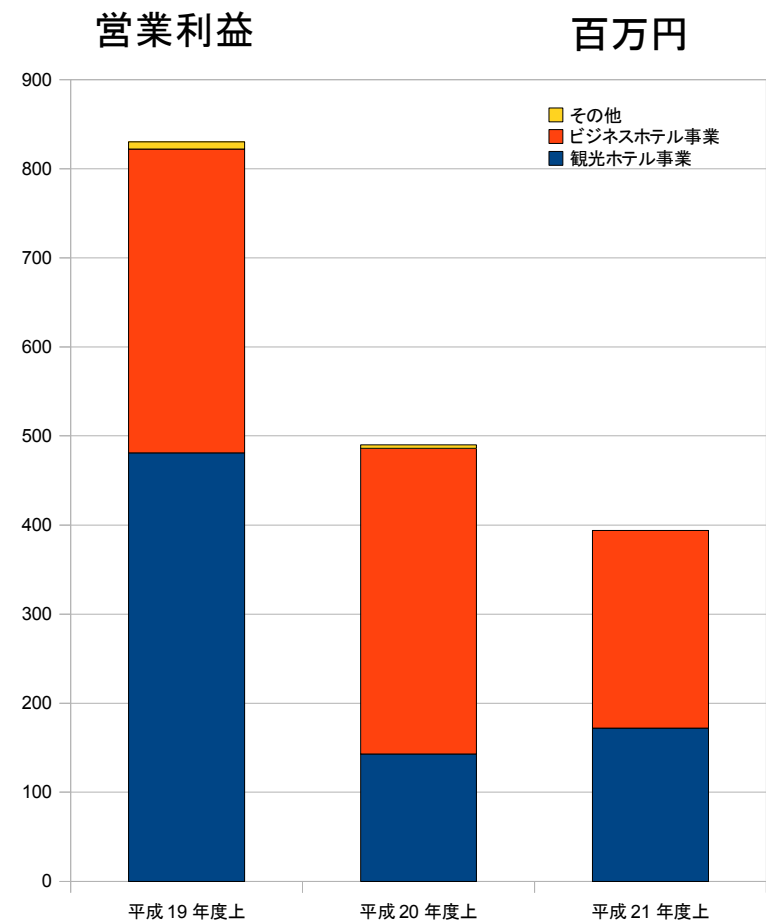
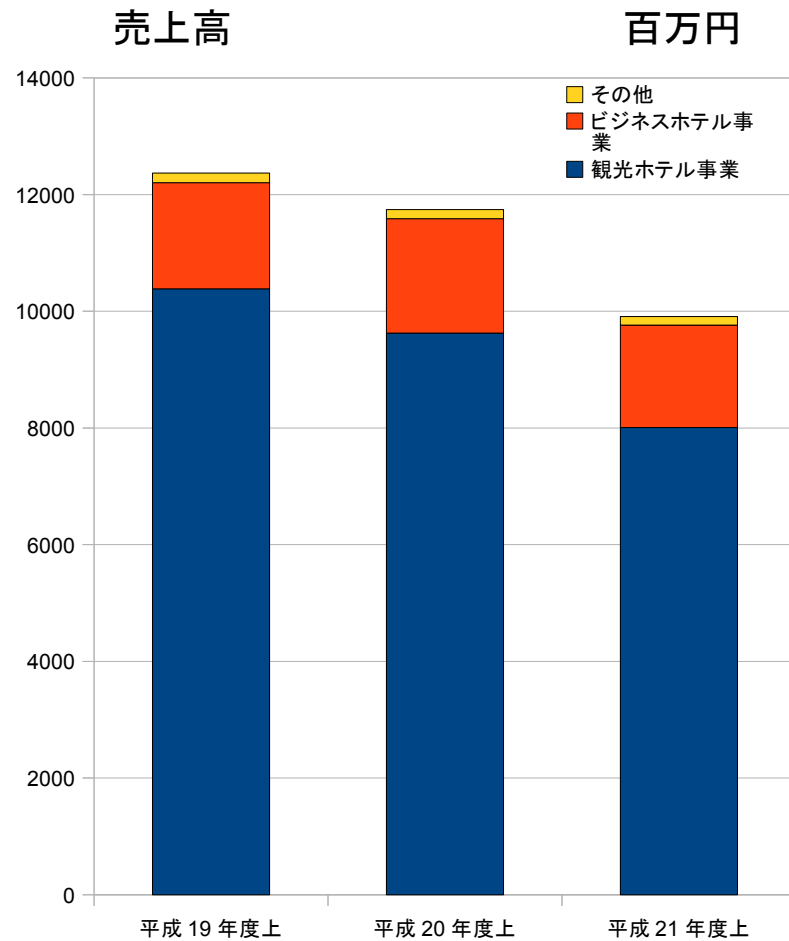
	2008年9月期	2009年9月期	比較
総資産	49,882	42,772	-14.3%
純資産	11,621	7,850	-32.5%
株主資本比率	23.3%	17.7%	-5.6ポイント

# 連結キャッシュフローの概要

連結 金額単位:百万円

	2008年9月期	2009年9月期	比較
営業キャッシュフロー	682	501	-181
投資キャッシュフロー	-11	-135	-124
財務キャッシュフロー	169	-517	-686
現金及び現金同等物の期末残高	5,356	3,293	-2,063

# セグメント別実績



# 地区別收容実績

地区	事業所数	2007/9/30 平成19年度	2008/9/30 平成20年度	2009/9/30 平成21年度	前年同期比
定山溪地区	1	194	206	182	-24
洞爺地区	2	237	224	175	-49
阿寒地区	3	161	159	112	-47
仙台地区	2	105	99	103	4
白浜地区	4	134	123	110	-13
首都圏・大阪地区	3	126	138	134	-4
合計	15	957	949	816	-133

単位：千人

# 事業所一覧

ホテル名	室数	収容人員	所在地
定山溪ビューホテル	647	2,650	札幌市南区定山溪温泉東2丁目111
洞爺サンパレス	453	1,850	有珠郡壮瞥町字洞爺温泉
ニュー阿寒ホテル	370	1,531	釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8番8号
洞爺パークホテル天翔	280	1,326	虻田郡洞爺湖町洞爺温泉38番地
ホテルエメラルド	206	912	釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目6番5号
ホテル瑞鳳	118	853	仙台市太白区秋保町湯元字隈6-1
秋保グランドホテル	140	724	仙台市太白区秋保町湯元字枇杷原2-2
ホテル古賀乃井	103	553	和歌山県西牟婁郡白浜町753
コガノイベイホテル	172	507	和歌山県西牟婁郡白浜町212-1
白浜シーサイドホテル	91	389	和歌山県西牟婁郡白浜町750-2
ホテル川久	88	320	和歌山県白浜町白浜温泉
晴海グランドホテル	215	430	東京都中央区晴海3-8-1
川崎グランドホテル	70	110	川崎市川崎区宮本町6-2
コスモスクエア国際交流センター	320	566	大阪市住之江区南港北1-7-50

# 株主分布

単位：千株

区分	2007/9/30 平成19年度	2008/9/30 平成20年度	2009/9/30 平成21年度
個人	4,857	4,873	4,955
法人	3,803	3,786	3,704
その他	10	11	11
合計	8,670	8,670	8,670

区分	2007/9/30 平成19年度	2008/9/30 平成20年度	2009/9/30 平成21年度
北海道	4,901	4,867	4,806
東北	66	65	84
関東	2,031	2,016	2,070
中部	150	145	153
近畿	401	449	493
中国・四国・九州	80	79	72
その他	1,041	1,049	992
合計	8,670	8,670	8,670

単位：件

区分	2007/9/30 平成19年度	2008/9/30 平成20年度	2009/9/30 平成21年度
個人	962	1,008	1,042
法人	63	60	63
その他	1	1	1
合計	1,026	1,069	1,106

区分	2007/9/30 平成19年度	2008/9/30 平成20年度	2009/9/30 平成21年度
北海道	280	282	284
東北	62	63	67
関東	222	223	232
中部	70	75	83
近畿	322	358	374
中国・四国	67	65	61
その他	3	3	5
合計	1,026	1,069	1,106

本資料に関するお 問い合わせ

**カラカニ観光株式会社**  
本社 経理部

TEL(011)598-3225  
札幌市南区 定山溪温泉 東2丁目 111